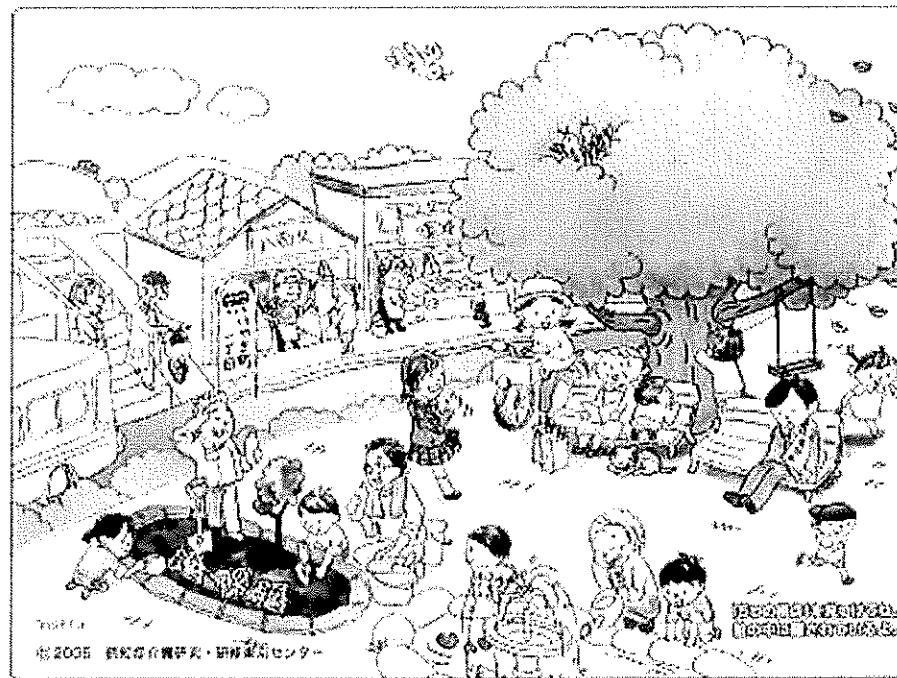


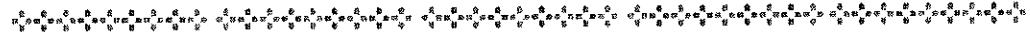
2005. 8版
いつどこネット

認知症の人のためのケアマネジメント センター方式

- 利用ガイド -



認知症介護研究・研修東京センター
ケアマネジメント推進室



今、それが知っていること、

気づいていること、

ケアの工夫やアイデアが

埋もれていませんか…？

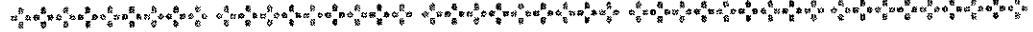
互いに対話をしてみましょう。

言葉や気づきを

シートに書き込んでいきましょう。

一つの記入が、本人と関係者の

今とこれからの可能性を開いていく一歩です。



平成16年度認知症高齢者ケアマネジメント推進モデル事業の実証結果より

認知症の人のためのケアマネジメント12の鍵

～センター方式を共に活かして新しい認知症ケアを地域で実現～



1. 認知症でもあきらめない、いつでもどこでも、「那人」から
2. めざすは「那人らしさ」、視点を共にチームパワーを
3. 一人ではない、本人の暮らしを支える仲間を知ろう、つくっていこう
4. 要はケアマネ、チームを束ねてつないでいこう、継続ケアの実現へ
5. 本人のそばにいる人こそが知っている、みんなの気づきをケアマネに
6. 急がずに、いいケアプランは日々の関係づくりから一步ずつ
7. 一にも二にも当事者の声、ひたすら聴こう、苦しみと希望を
8. 声なき声を見落とさない、当事者のサインをチームで見極めよう
9. 本人は底力を秘めている、本人が生きることを支えるケアプラン
10. 家族は底力を秘めている、家族と共にケアプランを育てよう
11. 地域は底力を秘めている、地域を舞台に町で暮らし続けるケアプラン
12. やれるケアプランで即実行、成功体験の連鎖でみんなが活き活きと

目 次

- センター方式 の活かし方（ケアする立場から） ··· 1
- センター方式シートのご利用にあたって ······ 2
- センター方式の「共通の視点」 ······ 3
- センター方式のケアマネジメントの流れと特徴 ··· 3
- センター方式シートの全体構造 ······ 4
- センター方式シートのねらい ······ 5
- センター方式シート記入上のルール ······ 6
- センター方式ご利用にあたっての留意事項 ····· 7

【センター方式シート一覧】

■Aシート群 基本情報

- A-1 : 私の基本情報シート A-1
- A-2 : 私の自立度経過シート A-2
- A-3 : 私の療養シート A-3
- A-4 : 私の支援マップシート A-4

■Bシート群 暮らしの情報

- B-1 : 私の家族シート B-1
- B-2 : 私の生活史シート B-2
- B-3 : 私の暮らし方シート B-3
- B-4 : 私の生活環境シート B-4

■Cシート群 心身の情報

- C-1-1 : 私の心と身体の全体的な関連シート C-1-1
- C-1-2 : 私の姿と気持ちシート C-1-2

■Dシート群 焦点情報

- D-1 : 私ができること・私ができないことシート D-1
- D-2 : 私がわかること・私がわからないことシート D-2
- D-3 : 生活リズム・パターンシート D-3
- D-4 : 24時間生活変化シート D-4
- D-5 : 私が求めるかかわり方シート D-5

■Eシート

- E : 24時間アセスメントまとめシート（ケアプラン導入シート）

認知症の人のためのケアマネジメント センター方式シート(選択式)は、認知症介護研究・研修東京センターの著作物です。©認知症介護研究・研修東京センター)

センター方式の活かし方(ケアする立場から)

日々のケアの中で、
みんなで活用していきましょう！

1. アセスメントとケアプランの展開ツールとして使おう

- ・新設の事業所やユニットでは、始めから取り入れて活用していこう。
- ・既存のツールを使っているところでは補強シートとして取り入れていこう。

2. 事業者と家族とのコミュニケーションや情報交換のためのツールとして使おう

- ・家族からシートを通してケア関係者(ケアマネジャー・担当者)に伝えてもらおう。
- ・家族のほうからシートを使って、情報や要望をどんどん伝えていこう。
- ・本人や家族の見落とされやすい力や希望を引き出すためのツールとして使おう。

3. 日常の情報集約ツールとして使おう

- ・ケア関係者は、本人や家族とのふだんの会話の中にシートの項目を盛り込んで情報を集めていこう。
- ・ケア関係者がシートを手元において、新たにつかんだ情報を追記していこう。
- ・必要なシートを記録や日誌代わりに使っていこう。

4. 他事業者との情報配信や会議に活かそう

- ・共通シートで効率的に情報を配信しよう。
- ・共通シートを活かしてケース担当者会議等を効率的に展開しよう。

5. 利用者が住み替える時は次の事業者に必ずバトンタッチをしていこう

6. 新しい認知症ケアの視点と具体を学ぶ教育ツールとして使おう

- ・新人研修で早速使ってみよう。
- ・現任者のケアの振り返りで使ってみよう。

センター方式シートのご利用にあたって

1 ケアプランはチームみんなで作ろう！

本人が「私らしく、安らかに、活き活きと」暮らしてゆけるケアプランを本人を中心としたチームのみんなで作っていきましょう。

※センター方式で大切にしているのが「チーム」です。チームとは、ご本人を支えていくご家族、ケア関係者、町の人々が含まれます。

※ご本人、ご家族に関するプライバシーや個人情報を徹底して守るために、チームメンバー全員の誓約や配慮が常に求められます。（「センター方式ご利用にあたっての留意事項」P8参照）

2 センター方式は、一度にすべてのシートを記入する必要はありません！

1)今、とらえられている情報を基盤に、まずは記入できるところから埋めていきましょう。

2)共通の「5つの視点」にそって利用者がとらえられていますか？

足りない点を把握していくために必要なシートを選んで記入していきましょう。

3 大大切なことは、ケアプランをチームみんなで実践し、モニタリングすること！

ケアプラン作成や実践は一人では不可能です。利用者を中心に、共にケアをするチームのメンバーを明確にし、協働していきましょう。

※一緒にケアをする家族や仲間は誰ですか？B-1、B-2シートから協力者を明らかにしましょう。

※チームのメンバーと一緒に、情報や気づきを寄せ合ってシートを充実させ、利用者が豊かに暮らしてゆくためのケアを一つでも多く実践していきましょう。

◆すでに活用しているアセスメントシート（ツール）がある場合

活用して現在活用しているシート（ツール）を「5つの視点」にそって振り返り、センター方式シートの中から利用者をとらえる上で役立つと考えられるシートを選び、補強として利用して下さい。

◆センター方式ではあえて専門用語は使っていません。

現実の暮らしの姿や様子から事実を具体的につかんで日常の言葉でアセスメントしていく方法になっています。中核症状や周辺症状という専門用語をあえて使っていません。

最も大事なのは…

1. 本人と家族の声。

表面的な声や状態だけではなく、その人の真意に気づこう！

可能なら、職員だけでなく、本人や家族にシートをお渡しして記入してもらいましょう。

2. そして、本人の視点にたったプロの見極め。

すべての記入内容は、本人である『わたし』の視点に立って書き進め、本人がよりよく暮らすための課題とケアを見極めてゆきましょう。

センター方式の「共通の視点」

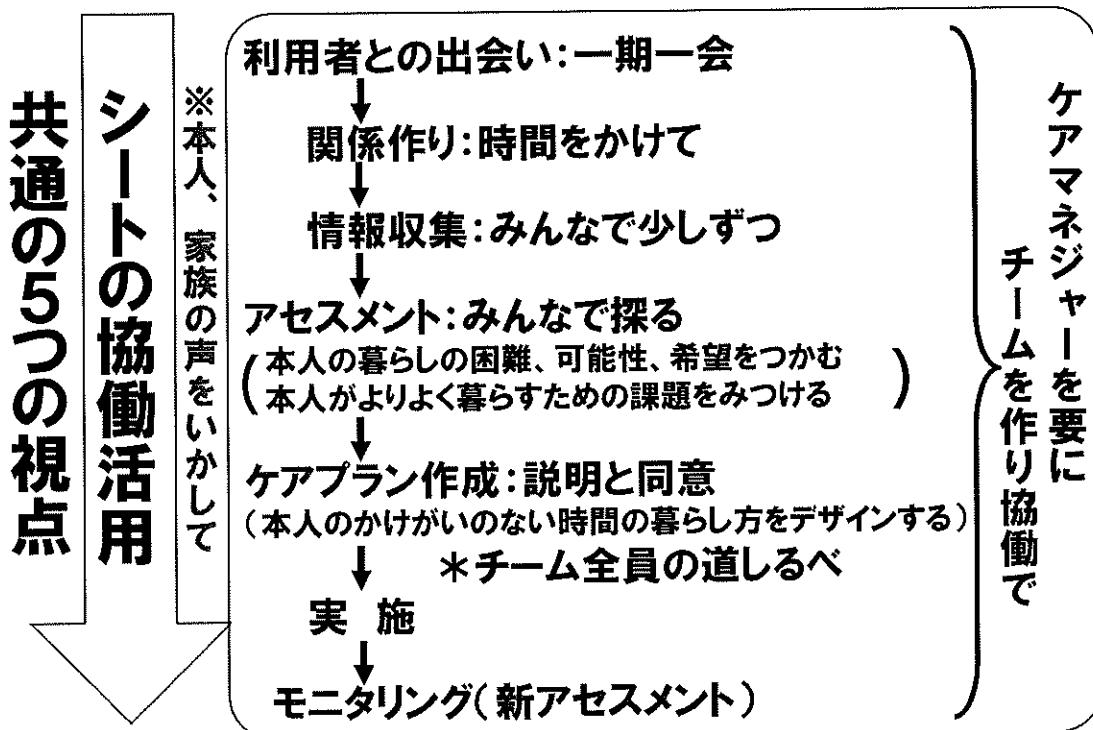
今、すべての人が目指すべきは、認知症の人を問題視したり、問題対応のケアに追われるのではなく、認知症があってもその人らしく生きるために支援を関係者全員が力を合わせて行っていくことです。そのための具体的な方法として、センター方式では関係者全員が共通の視点を持ち、そして徹底して利用者本位に立った支援を行ってゆくために、以下の視点を大事にしています。

5つの視点を大事にしたひとりひとりへの取り組みを積み上げて、いつでも、どこでも良質なケアを実現できる地域をめざしていきましょう。

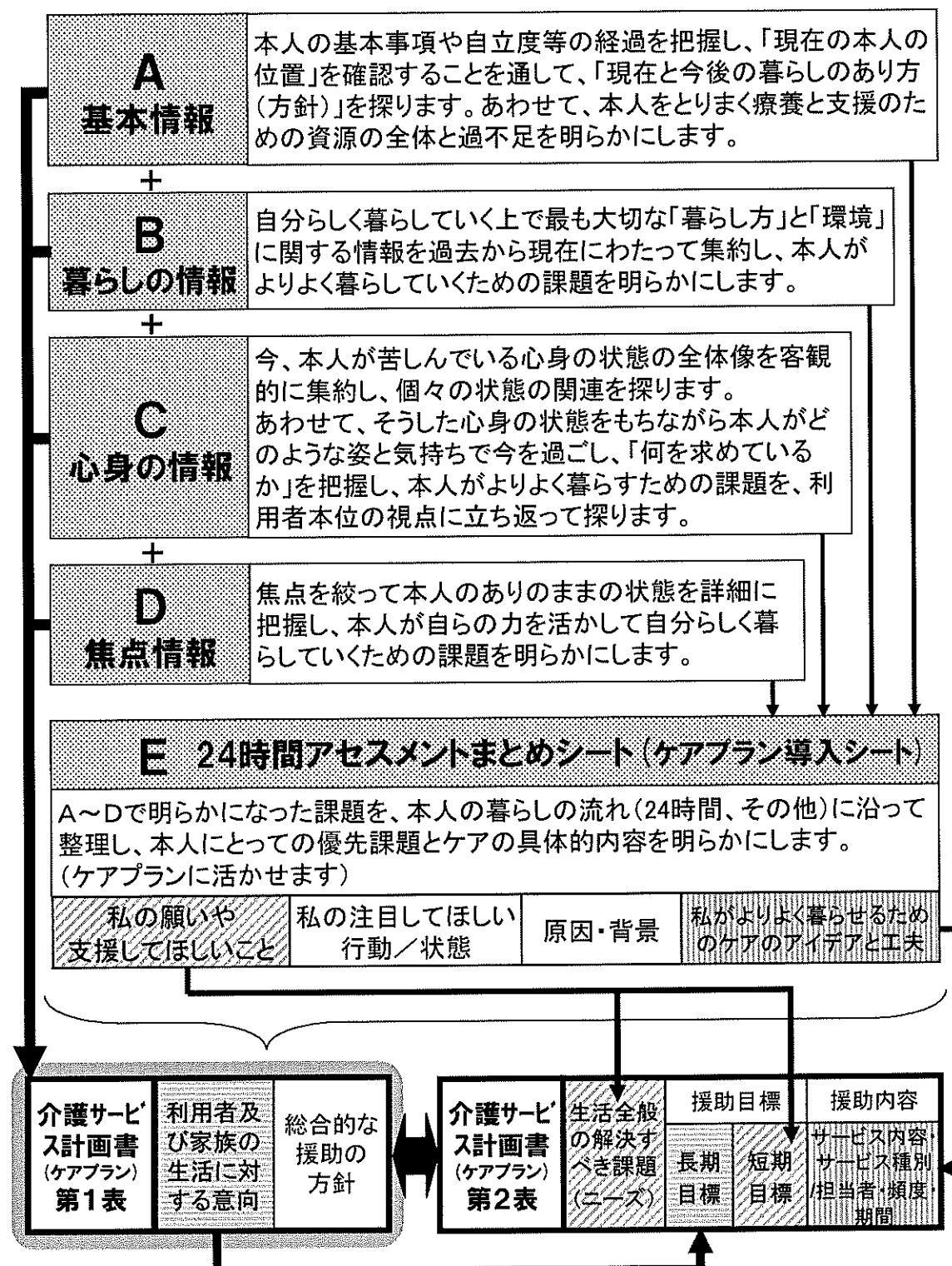
センター方式 共通の「5つの視点」	2015年の高齢者介護 (高齢者介護研究会)
1. その人らしいあり方	→ 1. 尊厳
2. その人の安心・快	→ 2. 安心
3. 暮らしのなかでの心身の力の発揮	→ 3. リハビリテーション・自立
4. その人にとっての安全・健やかさ	→ 4. 予防・健康づくり
5. なじみの暮らしの継続 (環境・関係・生活)	→ 5. 継続・地域包括

利用者の姿や暮らし方を「5つの視点」であらためて見直すと、様々な可能性やケアのヒントが見つかります。いつどこネットホームページ上の「センター方式で大切にしている5つの共通視点」をご参照ください。
(<http://www.itsu-doko.net/>)

センター方式のケアマネジメントの流れと特徴



センター方式シートの全体構造



センター方式シートのねらい

※シート名に  マークがあるシートはセンター方式シートの中でもコアになるシートです。
どこから書けば…とシートの選択に迷つたら、まずは  シートから書いてみよう。

領域	シート名		ねらい
A 基本情報	A-1	私の基本情報シート	これらの情報はご本人のためのものです。全てのシートは「利用者本位」を忘れずに、ご本人(私)を主語に、ご本人の視点でご記入ください。
	A-2	私の自立度経過シート	私の自立状態が保てるように、私の状態と変化の経過を把握してください。
	A-3	私の療養シート	今の私の病気や、のんている薬などを知って、健康で安全に暮らせるように支援してください。
	A-4	私の支援マップシート	私もしく暮らせるように支えてくれているなじみの人や物、動物、なじみの場所などを把握して、より良く暮らせるよう支援してください。
B 暮らしの情報	B-1	私の家族シート	私を支えてくれている家族です。私の家族らの思いを聞いてください。
	B-2	私の生活史シート	私はこんな暮らしをしてきました。暮らしの歴史の中から、私が安心して生き生きと暮らす手がかりを見つけてください。
	B-3	私の暮らし方シート	私が今に築いてきたなじみの暮らし方があります。なじみの暮らしを継続できるように支援してください。
	B-4	私の生活環境シート	私が落ち着いて、私らしく暮らせるように環境を整えてください。
C 心身の情報	C-1-1	私の心と身体の全体的な関連シート	私が今、何に苦しんでいるのかを気づいて支援してください。
	C-1-2	私の姿と気持ちシート	私の今の姿と気持ちを書いてください。
D 焦点情報	D-1	私ができること・私ができないことシート	私ができそうなことを見つけて、機会を作って力を引き出してください。 できる可能性があることは、私ができるように支援してください。もうできなくなったことは、無理にさせたり放置せずに、代行したり、安全・健康のための管理をしっかり行ってください。
	D-2	私がわかること・私がわからないことシート	私がわかる可能性があることを見つけて機会をつくり、力を引き出してください。 私がわかる可能性があることを見つけて支援してください。もうわからなくなったら放置しないで、代行したり、安全や健康のための管理をしっかり行ってください。
	D-3	生活リズム・パターンシート	私の生活リズムをつかんでください。私の自然なリズムが、最大限保たれるように支援してください。 水分や排泄や睡眠などを、介護する側の都合で、一律のパターンを強いてください。
	D-4	24時間生活変化シート	私の今日の気分の変化です。24時間の変化に何が影響を与えていたのかを把握して、予防的に関わるタイミングや内容を見つけてください。
	D-5	私の求めるかかわり方シート	私に対するかかわり方のまなざしや態度を点検してみましょう。
E	24時間アセスメントまとめシート (ケアプラン導入シート)		今の私の暮らしの中で課題になっていることを整理して、私らしく暮らせるための工夫を考えてください。

センター方式シート記入上のルール

1. 個別具体的な記入をしましょう。

ひとりひとりのケースの具体的ケアプランを導くために記載はできるだけ具体的な事実と、それに基づくケアのヒントを記入しましょう。

2. “□”は点検欄です。

該当する項目の□に“✓”を付けましょう。同時に判断した具体的な事実やケアのヒントも余白にメモしましょう。

3. 記入日の日付は担当者が最初にアセスメントでシートを記入した日を書きます。

シート全ての欄に記入できなくても、まず、介護計画を作成する担当者がアセスメントのためにシートに記入した日を記入します。

再アセスメント(アセスメント全体の再実施)までの間で、関係者が入手できた情報やケア上の気づきがあった場合は、同一シートに記入し、記入事項の末尾に記入者名と記入日を添えて書き加えます。

4. 「私の願いや支援してほしいこと」の情報源を明確に。

センター方式シートの中心的内容である「私の願いや支援してほしいこと」については、情報源を明確にするために、記入する文章の冒頭に以下のマークを入れてください。

- :私が言ったこと
- △:家族が言ったこと(※文末に本人からみたその家族の続柄も記入)
- :ケア者が気づいたこと、ケアのヒントやアイデア(※文末にケア者の名前も記入)

※各シートを記入していく中でケアのヒントやアイデアが浮かんだ場合には「私の願いや支援してほしいこと」欄に記入しましょう。

5. 「かかわり方」も点検しよう。

アセスメント(その人がよりよく暮らすための課題)の明確化のためには、利用者にのみ注目するだけではなく、関わる側を冷静に点検する必要があります。そのためにD-5のシートをご活用ください。

6. シートの欄が足りない場合は、シートをコピーしたり、A4用紙を添付して書き足してください。

コピー時の注意！
「C-1-1：私の心と身体の全般的な関連シート」と「C-1-2：私の姿と気持ちシート」は見開きでご利用ください。「C-1-1・2」と「E」シートは、A3サイズでプリントするか、A3サイズに拡大コピーしてご利用ください。

センター方式ご利用にあたっての留意事項

情報やシートを共有する前提として、チームのメンバーの一人ひとりは、以下の事項を徹底することが求められます。また、チームのリーダーの立場にある人には、チームメンバーに対して以下の事項の徹底を図ることが求められます。

1. 利用者本位、家族本位の視点、態度の徹底

支援してあげる、ケアサービスを提供してあげる等の提供側優位の視点や態度を厳禁とする。あくまでも、利用者、家族本位の視点・態度を徹底する。

2. 当事者のプライバシー、個人情報に触れる自らの立場性の理解の徹底・自己点検

ケアマネジメントのすべてのプロセスで、それを行うこと自体が当事者のプライバシーに踏み込む事であるこの立場性の確認と常に自己点検を行うことの徹底。

3. プライバシー・個人情報の守秘の徹底

4. プライバシー・個人情報の取得の制限

利用者本位、ケアマネジメントのための「必要最小限」の事項に限り、プライバシーに立ち入り、情報を取得することとする。

5. プライバシー・個人情報の目的外利用・提供の禁止

6. 適正な管理（保管・破棄）の徹底

1)取り扱い

あらゆる会議、打合せの、情報の送信等の際に、プライバシー、個人情報が文字および言葉としてあらわにならないように徹底する。

(1)会議、打合せ等

(2)送信時

2)保管

3)持ち出し、携行時

4)廃棄

7. 複写・複製の禁止

8. 事故発生時における報告・対応

プライバシー、個人情報の保護に関し、何らかの事故が発生した場合の報告・対応策の明確化。

センター方式を使っていくために

□教材

センター方式の理解や具体的な記入のしかたについては次のテキストをご参照ください。

- ・「認知症の人のためのセンター方式の使い方・活かし方」 中央法規、2005
- ・「認知症の人のためのケアマネジメント センター方式 シートパック（解説付）」 認知症介護研究・研修東京センター、2005
- ・「新しい認知症ケア～いつでもどこでもその人らしく 最期まで～」
2005、中央法規

□ホームページ：いつどこネット <http://www.itsu-doko.net/>

★ホームページからセンター方式シートを無料でダウンロードしていただけます。

ぜひ、ご覧ください。

★取り組んで気づいたこと、工夫したことなどもぜひお寄せください。

新しい認知症ケアの学びのために

□書籍

- ・「認知症の人の思い、家族の思い」 中央法規、2005
- ・「私は私になっていく」 かもがわ出版、2004
- ・「高齢者の尊厳を支える介護」 法研、2003
- ・「図解 痴呆バリア・フリー百科」 TBSブリタニカ、2002
- ・「デンマーク発痴呆介護ハンドブック 介護にユーモアとファンタジーを」 ミネルヴァ書房、2003 ※多職種で取り組む認知症介護の手引書
- ・「だいじょうぶ だいじょうぶ、助け助けられる日々」 筒井書房、2003 ※在宅の訪問介護の具体的な事例集
- ・「大逆転の痴呆ケア」 筒井書房、2003

□映像

- ・「痴呆の人から学ぶ～クリスティーン・ブライデン講演より～」(第1巻～第3巻)
シルバーチャンネル、2003
- ・「懐かしの玉手箱」(全7章) シルバーチャンネル、2003

発行元

社会福祉法人 浴風会
認知症介護研究・研修東京センター ケアマネジメント推進室
〒168-0071 東京都杉並区高井戸西1-12-1
電話 03(3334)1150 FAX 03(3334)2156
URL <http://www.itsu-doko.net/>
発行年月日 平成17年(2005年)8月